

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東京環境工科専門学校は
持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGs ウエディングケーキモデル



ストックホルム レジリエンス研究所の所長が考案した、“SDGsの概念”を表す構造モデルです。
この図では、経済は社会に、社会は生物圏に支えられていることを表しています。

Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.

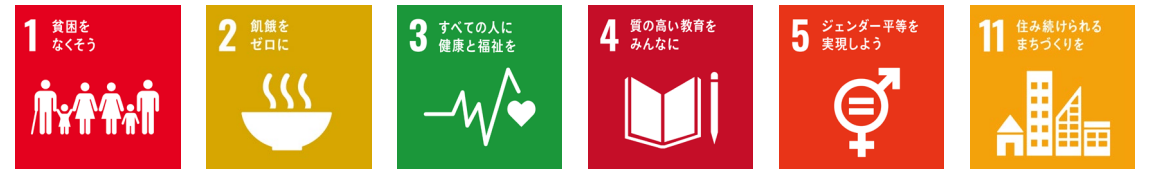
17 パートナースhipで
目標を達成しよう



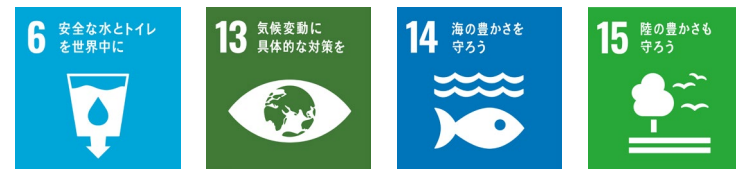
- 様々な環境団体と協力し、環境保全に貢献（C.W.ニコル・アフアの森財団、首都高速道路株式会社、東京動物園協会多摩動物公園、鶴見川流域ネットワーク、鶴見川源流ネットワーク、小網代野外活動調整会議、暮らし・つながる森里川海、ネイチャーリーダー江東、株式会社ビオトープギルドなど）。
- 30by30アライアンスへの参加団体として登録。
- 自然共生サイトへの「連携団体」、「有識者」登録。



- キャリア教育で働くことの意義を伝え、自分の道を見いだす力を身につける。
- 鳥獣害対策支援・林業などの、地域の産業を持続・発展させる人材を育成。
- さまざまな教科を通じて、世界の状況を理解する。
- 学校設立以来、本校が実施してきた教育・実習を通して持続可能な開発と自然と調和したライフスタイルへの理解を深め、実践力を養う。



- 実習での野外活動・自炊体験を通じて、十分な食事がとれることへの感謝の気持ちを養う。
- 環境教育の授業等を通して、誰もが生きやすい社会にしていけるために自分の役割について考える機会を持つ。
- 生物多様性および自然環境保全の分野で活躍するための技術・知識をすべての学生が主体的に学ぶことができる教育を目指す。
- ユニセックス制服の採用。学生も教員も皆が対等に意見が出せる環境、実習づくりの実施。
- 世界自然遺産である屋久島での実習を実施。生物調査の結果を林野庁・屋久島森林生態系保全センターへ提供。



- 森・里・川・海のつながりを念頭に、流域単位や各々の環境でできる学習や保全活動を通じて、生態系や生物多様性の保管理分野で活躍できる人材を育成。
- 流域保管理の実施。鶴見川の源流（町田市）および下流域（横浜市綱島）、馬入川（平塚市）での実習を通して流域生態系の保全・回復に貢献。鶴見川水マス推進サポーターに登録。
- 授業を通して、気候変動対策に関する教育・啓発を実施。
- 各実習場で在来植生の保全、外来生物の防除・管理を実施。
- 墨田区の環境施策(第二次墨田区緑の基本計画)の策定へ協力。
- 実習中に確認された希少種（主に山梨県レッドデータブック指定種）の情報を山梨県自然共生推進課へ提供。